

第5回 自家用操縦士等ヒューマンファクターズ訓練検討会議事概要

日時：2026年2月24日（火）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館7階 航空局A会議室

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。委員等からの主なご意見、ご指摘は以下のとおり。

（⇒は事務局の発言）

（1）前回検討会における意見等

- テクニカルスキルと違い、ノンテクニカルスキルの評価は難しい。振り返りによって、評価に近いものができると思う。
効果的な訓練とするためには教官のあり方が大きく影響するため、特に理解させるべきポイントを示した教官のためのガイドラインを作成していただきたい。
⇒ 今後、教官のためのガイドラインを作っていきたい。
- ノンテクニカルスキルの評価は非常に難しいが、訓練を受けた後のアンケートは有効であるため、取り入れていただきたい。
- CRM訓練について、ロールプレイを行うことが初めて訓練を受講する者にとって最も理解しやすい。特にTEMは事故の未然防止であることを理解してもらい、それを繰り返し行うことが事故の再発防止につながる。
- 安全文化の要素である、報告する文化、公正な文化、柔軟な文化、学習する文化のうち、一番取り組みやすいのは報告の文化であり、制度として自発的報告制度（VOICES）があるので、VOICESのFEEDBACKを読むだけでもヒューマンエラー対策として有効であると思う。
- 登録訓練機関の講師が、依頼に応じて各地方の会場に出向いて訓練を行うことは可能と理解してよいか。
⇒ 依頼により講師が出張して訓練を行うことは可能と考えている。それに対応できるような形に様式等は修正したい。

（2）標準教材（案）

- 教材のボリュームが多いため、教官がどの部分を重点的に取り上げるべきかという点についても教官のためのガイドラインで示すことが大事である。
- 演習について、パイロットにとって天候に関するリスクやスレットは最も多く、TEMを理解する題材として良い。CRMスキルの活用の仕方についても検討されており、気づきも強調されているので、TEMの理解やCRMの活用が身につくのではないかと。

- ロールプレイ題材として訓練飛行は良い。教育に熱心になると安全への配慮が薄くなりがちであり、何が一番重要なのかを把握することが重要。また、滑走路誤進入も題材としているが、羽田空港での事故を契機としているため、滑走路誤進入を防ぐためにはATCコミュニケーションが重要であることも理解できるのではないかと。
- 事例研究では過去の事例を題材としているが、最新の機器を装備していたものの墜落に至ったという事例も発生しており、最新の機器に関する情報もアップデートできるようにしていただくと良い。
- 2回目以降の受講者は同じ教材かと批判が出る可能性がある。ロールプレイとTEMの事例研究に関しても、同じ事例であるとまた同じかという話になりかねないので、事例は2年に1回変更したりすると良いのではないかと。

(3) 最終とりまとめ (案)

- 我が国全てのパイロットにヒューマンパフォーマンスに関する知識やTEMといったノンテクニカルスキルが培われ、滑走路誤進入を含むヒューマンエラーが起因となる事故や重大インシデント等が減少することが今回の検討会の目的であり、最終とりまとめ (案) はよくまとめられている。特に、とりまとめ案13ページの「最後に…」から始まる部分がこの検討会のエキスとして最も大事なことではないかと思う。
- 自信過剰によって事故を起こすということもあり、権威勾配は、マルチクルーの問題と認識するかもしれないが、シングルパイロットにおいても自分を客観視する必要があることを加えていただきたい。
- 最終とりまとめ (案) については、事務局案で確定として異議なしということにさせていただく。